

かほく市議会 地域文教常任委員会 視察報告

【研修日程】

令和5年8月8日（火）～10日（木）

【視察研修先及び内容】

1. 北海道恵庭市 : 子育て支援（えにわっこサポート事業、えにわ子育て応援隊）の取り組みについて
2. 北海道北広島市 : ボールパーク構想について
3. 北海道千歳市 : スポーツコミッションについて

【参加者】

地域文教常任委員長	大西	潤
副委員長	長柄	裕
委員	猪村	博靖
	杉本	正一
	高橋	成典
	坂井	正靱
	金子	猛
議長	杉本	成一
随行	酒井	大介

子育て支援（えにわっこサポート事業、えにわ子育て応援隊）の取り組みについて

（北海道^{えにわ}恵庭市）

恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、交通アクセスの利便性が高く、その優れた地理的条件や環境の良さから市内産業も着実に発展しており、新しく造成した工業団地についてもすぐに企業の進出が決まっております。豊富な水資源に恵まれており、全国的に知られる「花のまち」としてガーデニングや花苗の生産が盛んなまちであります。

また、人口は、令和元年には7万人を超え、人口減少社会にあつて、道内でも数少ない人口が増え続けている市です。

恵庭市では、地域全体で子育てを支え合うことを目的として、市内の様々な機関・団体と「えにわ子育て応援隊」を立ち上げました。現在179の会員で構成され、「私たちは、こんなことができます」「こんなことがあると良いと思う」など、子育てをテーマとしたアイデアを話し合いながら、子育てに関するイベントや事業を行い、オール恵庭で子育てを応援しています。

えにわ子育て応援隊の事業の一つである「えにわっこサポート事業」では、子育て家庭がもらえる「えにわっこサポートカード」を協賛店に提示すると、割引や子どもへのプレゼントなど様々なサービスを受けることができるとのことでした。また、子育て世帯が安心してタクシーが利用できる「えにわっこ応援タクシー事業」や子育て世帯に優しい企業を表彰する「子育て応援企業表彰」など、関係機関との連携強化を図るなど地域で子育てを支援していく仕組みづくりを進めていました。しかし、業者の見返りの少なさのため、事業展開にブレーキがかかっているようでした。

本市においても、子育て支援に力を入れている点では共通しており、行政・民間・地域のまち全体で子育てを支え合う取り組みは、大変参考になるものでありました。地域の特性を生かし、実情に合わせ取り組みたいと感じた研修でありました。



ボールパーク構想について

(北海道北^{きたひろしま}広島市)

北広島市は、札幌市と新千歳空港の中間にあり、鉄道や国道、高速自動車道などのアクセスに恵まれる一方、樹木や花々が四季を彩り、自然豊かなまちです。57,000人が暮らす北広島市は、明治17年に広島県人25戸103人が、原子の森に開拓の鋤を入れ、今日の基礎が築かれたことに始まります。古くから交通の要衝で、クラーク博士がBoys, be ambitious（少年よ、大志をいだけ）の名言を残し、学生たちと別れた地でもあります。

北広島市では、昭和45年に総合運動公園の整備を計画したものの、市の財政負担等を理由に整備が進んでおらず、そのポテンシャルを十分に生かしきれていない状態でした。そんな中、平成27年に国の先導的官民連携支援事業の助成を受け、スポーツ施設整備の官民連携導入の調査を行っていたタイミングで、北海道日本ハムファイターズが新たな自前の球場を作るという方針を表明されました。誘致は北広島市の究極の地方創生との思いで、ボールパーク誘致を提案したとのことでした。

北広島市の目指す都市像とファイターズの企業理念の方向性が一致し、候補地として内定した後は、北広島市だけではなく北海道そして札幌市を含めた近隣16市町村に加えて、北海道日本ハムファイターズと共に、ボールパークを核とした協働によるまちづくりが始まりました。新球場の開業を先行させ、ボールパーク内にホテル、公園、分譲マンション、シニアマンション等のあらゆる世代の人々が交流する場を整備し、ボールパーク外では、主要アクセス道路の設置、鉄道アクセスとして新駅の整備、新駅北側の開発等を行い、最終的な完了を20年後としています。

本市においても、総合体育館を活かしたまちづくりを行政と民間事業者が連携して進めていく重要さを学ぶ機会となりました。規模の違いから、導入が難しい点があるものの、地域活性化につながる施策議論の参考になるものでした。



スポーツコミッションについて

(北海道千歳市)

千歳市は、石狩平野の南端に位置し、国立公園支笏湖や千歳川などの豊富な自然に囲まれた住環境と陸・空の交通アクセスや生活利便性に優れた中核都市であります。

大正 15 年、当時の千歳村民総出の無償の奉仕によって造成された一本の着陸場を起源とする新千歳空港は、国内有数の空港へと成長を続けており、北海道の空の玄関口として、北海道内全体の地域活性化や観光振興に寄与しております。

千歳市の人口は 97,000 人を超え、北海道内でも数少ない人口増加を続けている都市であり、平均年齢は道内一若いまちであります。

千歳市では、交流人口の拡大、スポーツによる地域活性化を目指し、商工会議所、観光連盟、町内会連合会、体育協会、航空会社、自衛隊、ホテルなど 37 の団体で構成される「千歳市スポーツ合宿・大会誘致等推進協議会」を発足させました。関係する機関団体が連携し、快適な気候と豊かな自然環境、新千歳空港などの交通アクセスの利便性を活かしたスポーツ合宿や大会の誘致を行っています。

合宿の中心地となる青葉公園は、総面積 102 ヘクタールを擁する道内屈指の総合公園であり、陸上競技場、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニスコートなど、17 の施設が整備されています。

合宿を誘致したことにより、市民が施設を使用できなくなることはないよう、陸上競技など屋外競技を中心とした誘致活動を行っているとのことでした。

また、千歳市で合宿するアスリートと市民との交流の場を設けるアスリート交流事業の展開や市内で宿泊して合宿することを条件に施設使用料を全額免除する合宿支援制度の創設など、スポーツ合宿等の誘致を促進しています。

本市では、ホテルなどの宿泊施設が少ないことなどの課題がありますが、陸上競技を中心とした合宿誘致やスポーツコミッションのあり方において、参考になる点がありました。

